

Heroldo de HEL

N-ro 57 aprilo-junio 1995

ORGANO DE
HOKKAJDA ESPERANTO-LIGO

北海道エスペラント連盟

053 苫小牧市糸井393-83 星田 淳方
HOKKAJDA ESPERANTO-LIGO
Ĉe Acuŝi HOŜIDA
Itoi 393-83, TOMAKOMAI
053 Japanio

ENHAVO

- La plej estimata s-ro T. Nitta forpasis!
わが師、新田為男氏 逝く!
Hiroo KODAMA 児玉広夫 2
- Tiel rakontis pri si nia bedaurata
pioniro Sinjoro NITTA Tameo
故新田為男さんのエスペラント運動自叙記録
Acuŝi. HOŜIDA 星田 淳 4
- komento de S-ro NITTA pri la raporto pri
sia esperantista vivo
「自叙記録」についての S-ro 新田 の手紙
A. HOŜIDA 星田 淳 5
- HEL DANKAS(-os) POR VIA KOTIZADO
会費のお礼
ŬATANABE Ŝindoo 渡辺晋道 6
- Danke ricevitaj HEL 受領印刷物
A. HOŜIDA 星田 淳 7
- ~'95 HOKKAJDA KUNLOĜADO DE ESPERANTISTOJ-
'95 北海道エスペラント合宿
Emiko BABA 馬場恵美子 8
- Prononco kaj skribado ~ Impreso pri la
kunloĝado
発音と筆記~合宿の感想
Ejko Abe 阿部映子 8
- Mia impreso pri la 8a kunloĝado organiz-
ita de HEL en 1995
1995年HEL第8回合宿の印象
JOKOJAMA Hirojuki 横山裕之 9
- REVENIS LA ĈEVALO AL HEJMLOKA ĈIELO
ふるさとの空に帰った馬
作: 木暮正夫
trad. ŬATANABE Ŝindoo 渡辺晋道 10
- RAPORTO PRI LA TRIA KOMITATA KUNSIDO DE
HEL 第3回HEL委員会報告
RAPORTO PRI LA KVARA KOMITATA KUNSIDO DE
HEL 第4回HEL委員会報告
KUNVOKO POR LA KVINA KOMITATA KUNSIDO DE
HEL 第5回HEL委員のお知らせ
Emiko BABA 馬場恵美子 12
- La 59-a KONGRESO de ESPERANTISTOJ en
HOKKAJDO
第59回北海道エスペラント大会(第1報)
Emiko BABA 馬場恵美子 13
- Cirkulero de A. HOŜIDA (パソコン通信)
A. HOŜIDA 星田 淳 14
- S-ro Rolf Ernst skribas elektronike per
INTERRETO (INTERNET)
スイスからのインタ-ネット通信(S-ro Rolf
ERNST)
A. HOŜIDA 星田 淳 15
- Raporto pri Festivalo de Hokkajda
Universitato 95
北大祭95報告
OOGA Toŝio 大鋸敏夫^雄 18
- EPIZODO INTER FAMAJ VERKISTOJ KAJ I.U.
ノーベル賞の大江健三郎、「死霊」の埴谷雄高
とエスペラント詩人 I.U.
Acuŝi. HOŜIDA 星田 淳 19
- Novaĵo pri Sapporo Esperanto Societo
札幌エスペラント会近況
Emiko BABA 馬場恵美子 20
- El redakto 編集部から
Ejko Abe 阿部映子 20

わが師、新田為男氏 逝く！

(北海道の夜空に、またも緑の巨星墜つ)

La plej estimata s-ro T. Nitta forpa-
-sis! Oh, Verda giganta stelo subite
malaperis super la Hokkajdan ĉielon!

児玉広夫(札幌)

さる3月25日早朝、兄から突然の電話があった。新田為男さんが昨日午後2時47分、市立岩見沢病院で肺炎のため不帰の客となったとの突然の知らせである。

兄は、新田さんとは由仁町役場で30年以上も職場を共にした仲、その訃報は朝の町内一斉の有線放送で聞いたという。

昨年の暮れであろうか、無性に新田さんの声が聞きたくて電話をかけてみた。なんとなく声の調子に元気がなく、ご容体を伺ったところ心臓病、糖尿病など患って、養生に専念しているとか、それでもエスペラントの講読誌を読む日課は欠かしたことはないとのことでしたので、途中お許しをいただいてエスペラントの会話に切り替えて頂いた。すると、見るみるうちに声に張りが出て、あの静かな、よどみない語り草がよみがえり、なんと延々30分にも及ぶ会話を満喫したのであった。

あの時、新田さん宅に訪問客がなければまだまだ会話は続いたであろうし、お互いに二人だけが味わえるあのエスペラントが醸し出す独特の雰囲気とも今生の別れとなってしまったのか。誠に残念でならない。

そもそも、私が半世紀にも近いエスペラント歴を有し、今後も生を受ける限りEsp

-istoであり続けるだろう、そのエネルギーの源泉はどうも新田さんから授けられたように思えてならない。

昭和21年秋、由仁村という片田舎の駅舎前に“青年よ、来れ！国際共通補助語エスペラント初級講習会へ”の楹文に目が留まり、たまたまその直前、岩見沢市の古本屋でエスペラントの存在を初めて知り、英語より易しい言葉という印象が強かったため、ためらいなくその講習会に参加した。講師は、文学青年でスポーツマンとして村内では有名を馳せた新田為男さん、それに由仁小学校教頭の岡本義雄先生のお二人で、当時の講習生は若い看護婦さん、村内小中学校の教師(主として女性)、それに青年団役員男女たちで、講習会場は満員の盛況だった。今ではそれを想像するだに困難であろうと思われる。

その時、私は20歳、新田さんは30歳、しかも不思議なご縁で、その後、昭和23年4月から僅か半年間でしたが、私も役場に籍をおき、上司は当時庶務課長の新田さんでしたから、エスペラントの学習に力をつけてくれたことはもちろん、私の人間形成のうえで計り知れない程の影響を与えてくれた方といっても過言ではありません。その具体例として、新田さんが役場の当直当番に当たったときは、必ずといってもいい程、私はわが家から丹前着持参で当直室を訪ね、話題は常に深夜に及んだ~ことをご披露するだけで十分であろう。それと今一つエスペラントとの係わりあいでは忘れられない思い出に触れておきたい。

それは、昭和45年4月から47年4月までの2年間、苫小牧港管理組合へ道からの派遣職員として出向していた時、毎月隔週毎に2回、新田さんはご自宅のある由仁町三川から車で1時間半にも及ぶ道程を、自ら運転して苫小牧市まで足を運んでくれたことだ。文字通り、雨の日も、雪の日も、その頃、苫小牧で活躍中の北島 瞳さん、影浦氏、それに時折見える瞳さんの妹、斎藤千寿さんや、影浦夫人を交えて、専らエスぺラントの会話力を身につけようと某喫茶店に集まったことだ。原則として、日本語は絶対に使わない。テーマは全くの自由、勝手気ままなおしゃべりはすべてエスぺラントで、ということだ。但し例外は、話の途中どうしても分からない用語があるときは、その部分だけ日本語の単語の挿入は許される、ということだから否応無しに、エスぺラントの構文に慣らされるというものだ。今振り返ってみて、あの頃のことを懐かしい。そして、エスぺラント運動に疑念や悲観的な思いが重なったときに、決まったように登場し、刺激剤を注入してくれたのが新田さんであったように思えてならない。

新田さんが亡くなってから1ヶ月が過ぎたころ、奥さんからのご要望もあり、書斎を訪ね、焼却を可とするもの、保存し同志に譲渡できるものとは分別をしてみたわけだが、私は、改めて新田さんがエスぺラントに寄せる情熱のいかに高いものであったかを思い知らされた。例えば、JEIの機関紙 La Revuo Orienta、UEAの月刊誌、El Popola Ĉinio、などは欠番なしできちん

と製本されており、更に驚いたことに、昭和25年から40年にかけて集中的に外国の同志30数名と文通した手紙や、返信の下書きなどが几帳面に保存されていたことである。また、私自身にとっても感動的だったのは、冒頭に述べた昭和21年秋、初級講習会参加の檄文や、講習会の教材として自らガリ版を切り、印刷したテキストなどが見つかったことだ。おそらく我が身をいとおしむが如く、それらを大事にしていたことであろう。

終わりに、3月26日の告別式のもようを報告したい。新田さんが永年にわたり町の収入役として貢献された功績により、名誉町民に列せられていたこともあり、式の参列者は大勢であった。そして葬儀委員長は挨拶の中で、新田さんのエスぺラントへ寄せる熱い思いにも言及され、たまたまこの度の訃報を知って、急ぎ色紙に達筆を振るわれ、私に霊前に供えられるよう依頼された木村喜壬治さんの次の和歌が披露された。

いくさ 戦なき 世をつくらむと むそよとせ 六十余年
きみ 貴兄とあゆみし エス語への道

なお、いよいよ出棺というとき、身内、親戚一同の最後のお別れの際、奥さんが柩の中に、木村さんが献じられた色紙と新田さん愛用のエス和辞典と眼鏡を、こっそりと忍ばせておられた。傍らでそれを見ていた私、北島 瞳さん、浜田国貞君は思わず交互にお別れの言葉を申し上げた。

"Dormu pace, Ripozu kviete,

Dankegon pro vi, Adiaŭ, adiaŭ!"

S-ro NITTA Tameo(1917.3.3 ~ 1995.3.24), nia pioniro forpasinta en marto, lasis al ni raporton koncernan pri sia esp-ista vivo. Li eklernis Esp-on en 1933, kiam li estis lernanto de teknika lernejo sub la gvido de S-ro ŬATANABE Takasi. Li fondis Esp-Societon en sia hejmloko Juni(Yuni) en 1937, sed ne povis agadi vigle pro la milito kaj malhelpo de tiama sekreta polico ĝis 1945. Dum kelkaj jaroj post la fino de la Dua Mondmilito lialoka movado multe prosperis en kunlaboro kun aliaj kapablaj esperantistoj. 43 jarojn li estis delegito de UEA por sia urbo Juni(Yuni-tyō, 北海道夕張郡由仁町).

我々の大先輩、新田為男さんが亡くなられた。昭和初期からの運動の歴史を知る方がまた一人減ってとてもさびしく感ずる。2年前、高砂市のS-ro峰芳隆に頼まれて、「日本エスペラント運動人名小辞典」の資料あつめを手伝ったことがあった。峰さんもいま Riveroj発行で忙しいのか「人名小辞典」はまだ出る気配がない。いま、新田さんの自筆の記録によってそのエスペ란ティストとしての個人史を紹介させてもらうことにする。

[学歴]

旧制北海道庁立苫小牧工業学校機械化卒業
東京市蒲田・飛行学校・自動車学校修理科修了

[職歴]

札幌五番館自動車部勤務
家業従事(精米業、家具販売業)
昭和18年以降由仁町役場勤務38年間
以後年金生活

[エスペラント歴]

1933年苫小牧工業学校在学中、同じ下宿の友人がエスペラントを学習していたのがきっかけで、工業の渡辺隆志先生の指導を受けた。35年3月上京、J E Iの中等講習に出席、岡本好次書

記長の指導を受けた。この年J E I入会。ほかの所属団体はH E LとU E A、また1952年からU E A-delegito.

1937年由仁エスペラント会設立、村の青年団員に対して小学校で講習。しかし2度軍隊に招集され、外事特高警察の嫌がらせもあって中断。

終戦後1947年から毎年講習を開いた。

町内：1. 由仁町立病院で：今官之助院長(故人)はエスペ란ティストだった。2. エスペ란ティストの岡本義雄教頭のいた由仁小学校で。3. 役場会議室 4. 三川地区消防番屋で。

町外：1. 岩見沢幼稚園で 2. 岩見沢商工会議所で(新田、武田指導) 3. 空知支庁宿泊所で講習、例会

その他：由仁小学校で生徒父兄の文化祭に、世界児童画展、新田の文通相手(40ヵ国ほど)の絵はがき展示、新田所蔵の雑誌、書籍などの展示。

(1教室を使った)

[その他、感想など]

若いものが少なくなり、田舎での活動はむづかしい。また講習会などに参加しても、多くの人は就職、転勤などで町を去り、都市へ移っていきました。

Komento de S-ro NITTA pri la raporto pri sia
esperantista vivo

「自叙記録」についてのS-ro 新田 の手紙

A. HOSIDA (Tomakomai)

Jen la letero de S-ro NITTA je 1993.2.12. Temas pri rilatoj inter kelkaj niaj pioniroj.

持病のせいか、体力、意欲も弱くなってきたようです。一応思い出すままに記入してみました、古い資料などを箱に入れて積んであり整理してませんので年月などに誤りがあるかもしれません。また、その他の社会的活動など、戦中には思想運動にのめり込んでいましたし、関係あった方で存命の人もありさしさわりがあっては……とも思いますし記入してありません、エスペラント運動と関係ありませんので。

この町の町長が特高で敏腕をふるった本庁の警部でしたし、由仁署の外事特高係長（あとで役場内で同僚）が毎日のように小生宅に密着していたりして、世間の人は変な目で見っていたようですし、外国からの印刷物は総べて一応提示して本庁まで届けられるし、手紙、ハガキ等はほん訳文をつけて提出する有様で……列車に乗り込んでいた外事係は戦後由仁高の英語教師になったり、病院事務長になったり……（東京外語卒）色々なことがありましたのも遠い若いころの思い出になり、余り誰彼にも細かいこと喋ってません。

当麻憲三さんは戦中は旭川エスペラント会で活動してましたし、あとで苗穂工機部にこられました。戦後第1回の大会は定鉄の相沢さんの所の開催、当麻さんも出られました。

昭19（1944）年の由仁町立病院開設には北大医局にいられた中里先生が尽力されたんです、それに初代院長が今官之助先生（外科）だったんです（新潟医大卒）。戦争から開放されて役場へ帰ってみたら小学校に岡本義雄先生（教頭、後に滝川教育長）がおられるし、今先生から話をかけられて病院（隣が保健所）で初等講習を初めて始めたんです。看護婦、保健婦、役場病院職員、街の青年（宮井君とその妹も）が集まってました。民主主義の風が反動的に強く吹き始めた時ですから皆熱心でした。

昨今の人達、お金も暇もあるし甘えているんでしょうか？！

私事を話して申しわけありません、走り書きしましたのでご判読ください。

遅延お詫びまで

(1993.2.12)

新田 生

星田 様

(注) S-ro j 今、岡本kaj 新田の3人のエスペランティストが由仁に揃っており、運動が1番盛んだっただころのことがかかれています。

★ 会費のお礼 : HEL DANKAS(-os) POR VIA KOTIZADO ★

前期決算時(94年8月31日締め)までの、94年分会費(家族会費を含む)納入者は、39名でしたが、下記までの入金をもって、94年分の会費を払われた会員数は、64名になります。

本年は95年ですので、皆様の95年分会費の振込みをお願いいたします。

なお、振込みの際は、必ず、振込み内容と電話番号をご記入ください。

☆ ☆ ☆ ☆

95年3月25日～6月7日の間に下記の方々から、94年分会費、並に、96年分会費をいただきました。ありがとうございました。(敬称略)

[94年分会費] 今野弘美 [96年分会費] 義村政見

☆ ☆ ☆ ☆

95年6月7日現在、下記の42名の方々から95年分会費、並びに95年分家族会費をいただいています。ありがとうございます。(敬称略)

[95年分会費]

阿部映子	後藤義治	山本昭二郎	小林貴美子	吉原正八郎	江口音吉
児玉広夫	渡辺康子	宮岸忠孝	桜居甚吉	小熊鉄一	馬場恵美子
坂下正幸	星田淳	藤巻謙一	影浦英明	山岸悦子	赤倉正治
二郷美砂子	岩崎泰夫	柴田智美	大原喬	末沢邦夫	港利子
新田為男	大山口誠	濱田國貞	高橋達治	須藤昭三	渡辺晋道
三ツ石清	山下博子	伊藤直樹	小川己久雄	金森美子	

(以上は、ヘロルド56号に掲載分の再掲載です)

那須栄 今野弘美 義村政見 横山裕之 大鋸敏雄(以上40名)

[家族会費] 星田文子 影浦泰子 (以上、同様、再掲載) (以上2名)

尚、三ツ石清氏から、5月6日付けの葉書により、退会の連絡がありました。

ŪATANABE Ōindoo raportis

*Mejlstono N-ro128, MARTO '95

(Eldonas : SENDAI ESPERANTO-SOCIETO)

●KIAL ONI DISKRIMINACIAS VIRINON EN LABOR-
EJO? (SAITO Tume): Raporto en fakkunsido de
IKEO(Internacia Kooperativa Esperanto-Organ-
zo) dum la 79-a UK, 24/JULIO/1994

*Mejlstono N-ro129, MAJO '95

●仙台エスペラント会・第15回会宿案内

(6月24~25日、宮城県青年会館にて) など。

Nun nia afero en Sendai konfrontas krizon
de pereco; とある。我々も危機感と緊張が必要なの
のかもしれない。

*VERDA MONTETO, Redaktita de MAEDA Yonemi,

(dumonata) N-ro 85, WAKAYAMA Marto, Aprilo

1995 -- とあるが封筒には 「エスペラント・
クラブ 和歌山緑丘会」とある。この会も機関誌
も歴史はかなり古かったと思う。変形B5判14
頁、この formatoは 二つ折りにして定形封筒に
ちょうど入るように工夫されている。内容は、
TEJO機関誌Kontaktoの記事 "Lidja"の紹介、「ソ
ウルの街角で」、チェコの少女に日本の歴史を説
明する手紙例など。

*Hokkaidô Rômazi Kenkyû, No. 81; Hes. 7n. 3gt.

20nt.; 北海道ローマ字研究会発行; B5判6頁

日本語ローマ字運動は日本語の言語(表現)改
革運動であり、エスペラント運動は国際的な共通
語普及運動として似たところがある。エスペラン
ティストで同時にローマ字・カナモジ運動にかか
わる人もよくあった。この研究会の会長、柄内和
男さんも、かつてはSES-HEL会員で、相沢
さんたちと一緒にお話したこともあったと思う。

*Hokkaidô Rômazi Kenkyû, No. 82; Hes. 7n. 5gt.

10nt.; 北海道ローマ字研究会発行; B5判6頁

●梅棹提案をめぐって: HRKK Kaityô TOTINAI

●朝日新聞紙上のローマ字論争 (T)

今年1月4日朝日新聞の「論壇」に出た梅棹論

文は翌月まで賛否の反響があった。上記の記事は
これについてのもの。

*La Movado, N-ro 531 maj. 1995; B5判16頁

●Pri Kompenso kaj 'Rebonigo' de Japana
Milita Sklaveco/ -*la afero de konsolvirinoj*-
林和男さんが昨年ソウルUKで行った「日本の
戦後補償、従軍慰安婦」についての報告。

このほかEl la tago de tertremego(MicuHideko)

JR釜石線のエスペラント愛称駅名、宮沢賢治の

「気のいい火山弾」の日-ESP.対訳(小西岳)、

エスペラント教材に関するアンケート(教育部)、
作文教室、会話上達法など内容豊富。

*La Movado, N-ro 532, jun. 1995

第43回関西大会、言語と戦争(朝比賀昇)、
北海道合宿記事など。

*PK de S-ro 三ツ石清(名古屋1995.05.06)

*事務所移転のお知らせ; 1995.5.25, 福岡エス
ペラント会: 移転先は☎818-01太宰府市都府楼南
2丁目8-7 武藤方, TEL:092(923)2877. なお
10年間同会書記を務めた西田光徳さんからの退任
あいさつも。ご苦労さまでした!

*SFERILO

SFERO(SAN FRANCISCO ESPERANTO REGIONAL OR-
GANIZATION)のINFORMILOの意味か?カリフォル

ニア州 Hillsborough の Esperanto Information
Centerで発行、A4よりやや小さい紙で4ページ。

一部ニュースに当たるところは英語。巻頭の文で
はザメンホフと、その同時代人で、第1回UKと
同じ1905年に第1回の集会を開いたロータリ
ーの創立者 PAUL PERCY HARRISとを比較している。

*SUMMER ESPERANTO WORKSHOP

SFERILOと一緒に送られてきた、今年のサンフ
ランシスコ州立大学のエスペラント講座(jun\26-
jul\14)のお知らせ、英文。講師陣はDUNCAN

CHARTERS, SPOMENKA STIMEC, ATILIO ORELLANA

ROJAS, SETSUKO UMEDA(梅田節子 el IKL)。

・95北海道エスペラント合宿

~95 HOKKAJDA KUNLOGADO DE ESPERANTISTOJ~

馬場 恵美子

連盟主催の合宿が、3年続けて法然寺（岩見沢市）を会場に5月26日（金）～28日（日）行われた。まずゲームの口馴らしでは簡単な単語や表現を繰り返して使うことでウォーミングアップをはかった。作文添削指導では主催者から参加者が事前に与えられていた課題によって授業が進められていったが、完成度が高く指導者を楽しませる迷回答(?)は無かったようだった。朗読発表会では、事前に主催者側から課題文を用意していたが参加者の殆どは自分で調達した意欲的なもので、友人からの手紙やアイヌユーカラを朗読した者もあった。また自作のエスペラント文を披露した者の中には、始めて数か月にも関わらず長文の自己紹介を作成したものや、小学校の教科書から作成したものもあった。パンケードでは「知れば知るほど国際語エスペラント」を鑑賞。第1部はエスペラントを知らない人向け、第2部は会話中心といったところ。

JEI学力検定特訓では過去の出題から問題点を検討これで試験はバッチリだ！。しかしその後すぐ行った学力検定は、予想に反して問題が大幅に改定。何と出題者が変わったそうな... 結果や如何に！また去年からの連盟主催勉強会に続けて3度参加している5名にFantomrakontoj（小泉八雲、市村志朗訳）が送られた。

さて気になるのは参加者の減少傾向。どうすればもっと多くのエスペランティストに参加してもらえるか。場所・時期・企画かそれとも何か不足しているのだろうか。少なくとも参加者はかなり意欲的に受講しているだけに主催者としては頭の痛いところだが、ここが正念場のようだ。図書販売では「知っておきたいエスペラント動詞100」が好評。図書総売上は¥25,804。参加者11名。JEI学力検定（4級）受験者3名。



prononco kaj skribado ~Impreso pri la kunlogado
発音と筆記 ~合宿の感想

Ejko Abe 阿部映子

真面目に予習して参加するはずの岩見沢合宿でしたが……。普段の不勉強のせいで、特に作文練習が難しい（すみません。Heroldo de HELに事前に載せた作文練習も、間際になってから始めて途中までしかできませんでした）。エスペラントは、書いてあるとおりに読めばいいのだから、書くのもそう苦労はないはずなのに、一応頭の中に文は浮かぶのに綴りが間違っている。正しい発音をしていないのが原因と指摘され、そういえばRとL、BとV、それからKとKUがいかがげんで、合宿の度に講師から注意されてきている。（Heroldo de HELのENHAVOでも時々RとLを間違っ、前号の訂正を繰り返している）正しく覚えるためには、声に出すことが大切だとつくづく思いました。

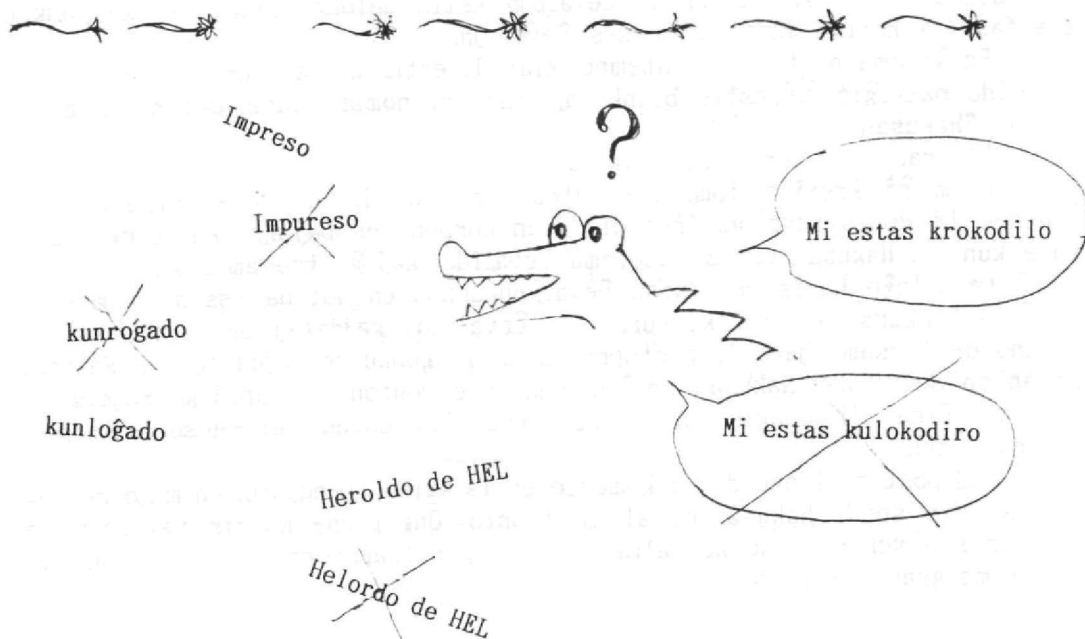
ところで、skribadoはこの綴りで良かったのかな？ skuribadoかもしれない……？ 迷う時は辞書で確認して声に出すことを心がけなくては。

Mia impresoj pri la 8a kunloĝado
organizita de HEL en 1995
(1995年HEL第8回合宿の印象)

JOKOJAMA Hirojuki (Tomakomai)

Mi ĉeestis la kunloĝadon por la unua fojo.
Pro mia laboro, mi ĉeestis de la dua tago.
La iuj instruiloj interesis min, speciale
trejnado por frazfarado tre interesis min.
Por progreso en lernado de Esperanto, estas
grave ke ni ekzercu nin en variaj esprimoj
kaj esprimoj, kiujn oni ofte eraras.
Por la ekzameno de JEL, mi esperas, ke ni
tiel nin ekzercu pli intensive.
Kaj mi esperas, ke ni aŭskultu esperantan
paroladon kaj parolu esperante pli intensive.
Por progreso de HEL, mi esperas, ke ni
klopotu pli intensive.

私は合宿に初めて参加した。
仕事の都合で、私は二日目から参加した。
教材については、どれも興味深かったが、私には
作文練習がとてもおもしろかった。
いろいろな表現や、間違いやすい表現の
作文練習は、エスペラント上達のために
重要なことだと思う。
JEL検定試験のために、この作文練習を
さらに強化していったほうがよいと思う。
その他、ヒアリング、スピーキングを
強化していったほうがよいと思う。
HELの発展のため、さらなる
努力を期待します。



小学生の国語の教科書には、近年、(太平洋)戦争をテーマにした話が、必ずといっていいほど載っています。下記の「ふるさとの空に帰った馬／作：木暮正夫」は、教育出版社「2年生」から訳し、今年のHEL合宿で朗読発表したものです。

REVENIS LA ĈEVALO AL HEJMLOKA ĈIELO

Trad. ŬATANABE Ŝindoo

En la fino de norda urbeto, izole troviĝis malgranda stacidomo. Post la mallonga somero, multaj ruĝaj libeloj flugis facile.

"Ek!" La dizela vagonaro, en halto ĉe la stacio, fajfegis, kaj malrapide ekkuris.

Staciestro de la malgranda stacio forvidis la duvagonan trajnon strante sur la kajo, kaj li revenis en la ĉambron de staciestro kaj prenis la seĝon.

En tiu stacio nur sep vagonaroj haltis ĉiutage. Li estis malgaja, ĉar pasaĝeroj malmultiĝis pli kaj pli ĉiujare.

Li malfermis tre malnovan kajeron sur la tablo. Ĝi estis la stacia taglibro, kiun antaŭ ĉirkaŭ kvindek jaroj tiama estro de ĉi tiu stacio uzis.

La kajero trovita en fundo de la ŝranko montris, ke oni transportis de la stacio multajn ĉevalojn per kargovagonaroj.

Skribo estis tiel, kiel ekzemple "La 16-an de oktobro, 1943. Nuba. 23 ĉevaloj. Ĉar lastatempe mankas taŭgaj ĉevaloj, oni sendas ankaŭ jam ne junajn ."

La taglibro estis skribita ekde la printempo de 1941. Tiam Japanio militis. Milito bezonis multajn ĉevalojn por rajdado de soldatoj kaj porti pezaĵojn. Oni kolektis la ĉevalojn el paŝtejoj kaj kanmparanoj, kaj sendis ilin al fora fronto trans la maro.

"Ho, oni transportis ĉirkaŭ mil ĉevalojn al fronto de ĉi tiu stacio, ĝis la fino de la milito!"

Sumo de la nombro de la ĉevaloj sur la taglibro ja atingis ĝis 947! Kelkajn el ili la staciestro sendis de sia domo, kiam li estis lernejano.

Li naskiĝis en vilaĝo, ne tre malproksima de la urbo kun ĉi malgranda stacidomo. En la vilaĝo, breidi ĉevalojn estis delonge prospere, kaj ankaŭ lia familio kutime havis kvin-ses ĉevalojn.

En ŝtorma nokto de printempo, kiam li estis en la kvara lernejarlo, unu ĉevalido naskiĝis. Ĝi estis blanketa, kian oni nomas ruana. Oni donis al ĝi nomon "Hakusan".

"Akira, volu varti la ĉevalidon!"

Kiam ĝi kreskis iom, lia patro diris al li. Li ĝoje prizorgis ĝin ĉiutage. Li donis furaĝon, frotadis ĝian korpon per pajlaĵo, kaj ĉirkaŭkuris kune kun ĝi. Hakusan estis petolema ĉevalido, kaj ĝi tre amis kuri.

La vilaĝo havis provincan ĉevalkonkurson en aŭtuna festo ĉiujare. En la ĉevalkonkurso okazis konkurso de ĉevalidoj rajdataj de lernejanaj. En aŭtuno de la sama jaro li partoprenis en la konkurso rajdante sur Hakusan. La animo de li kaj Hakusan uniĝis. Fendante venton, li rapidege rajdis sur Hakusan. Fine ili venkis en la konkurso. Tio estas neforgesebla memoro ankoraŭ nun.

Sed post ne longe de la komenco en la kvina lernejarlo, en majo de 1945 oni decidis sendi Hakusan'on, al la fronto. Oni plene ŝargis vagonojn per Hakusan kun ventro-zono kaj aliaj ĉevaloj por transporti ilin malproksimen de la malgranda stacio.

Li venis tien kun sia patro por forvidi Hakusan'on, kaj plorante svingis la brakojn eĉ post ol la vagonaro jam foriĝis. Hakusan estis ankoraŭ juna ĉevalido.

"Akira, paciencu! Certe ĝi revenos post la milito." La patro kuraĝigis lin, sed lia voĉo tremis.

Tri monatojn poste, la milito finiĝis. Baldaŭ tiuj revenis hejmen kelkaj post kelkaj, kiuj iris al la fronto kiel soldato. La knabo atendadis baldaŭan revenon de Hakusan, ĉiutage murmurante al si, "certe hodiaŭ ĝi revenos!"

Kaj li ofte iris al la stacio, tamen ne revenis Hakusan. Ne nur ĝi - neniu revenis el ĉirkaŭ mil ĉevaloj, kiuj iris al la fronto de ĉi tiu stacio.

Ne nur ĉevaloj. Ankaŭ troviĝis vilaĝanoj, kiuj ne revenis el la fronto.

La staciestro senbrue fermis la kajeron.

"Nun, mi memorigu al mi la ĉevalojn, kiuj estis senditaj al la fronto kaj neniam revenis hejmlokon. Ni konstruu monumenton en la placo de stacio, esperante ke homoj kaj ĉevaloj neniel iros al fronto ankoraŭfoje."

Iun tagon, li diris tion al vilaĝ-oficistoj, kaj al maljunuloj, kiuj tiam sendis ĉevalojn kaj sentis sin maldolĉaj.

"Ĉar ni nun vivas en paco, mi ne havas intereson pri tia malnova afero." li diris al li.

Tamen plimultiĝis, kiuj instigis lin, "Tio gravas. Dum la milito, kvankam oni mobilizis kelkdek mil ĉevalojn al la fronto el la tuta lando, tamen nun forgesis ilin. Nepre ni konstruu la monumenton!"

li instruistoj sciigis lernantojn pri la vortoj de la staciestro.

Troviĝis homoj, kiuj en sia urbo aŭ urbeto kolektis monon por la monumento, kaj alportis al la stacio dirante, "Bonvole uzu ĉi tiun monon."

Unu jaro pasis post la alvoko de la staciestro. En iu tago, kiam ruĝaj libeloj denove komencis flugi facile, multaj homoj amasiĝis ĉe la malgranda stacio en la suburbo. Inaŭguro de la monumento estis komenonta en la stacia placo.

Parada muzikistaro de lernejanoj eniris la placon. La spektantoj aplaudis. Neniam antaŭe tiom da homoj kunvenis ĉe ĉi tiu malgranda stacidomo.

"Do, nun ni malferumu la inaŭguron. Reprezentantoj de maljunuloj kaj lernejanoj en la vilaĝo inaŭguros la monumenton." La staciestro salutis. Lia koro pleniĝis de emocio.

Ili aplaŭdegis kaj ĝojkriis. Kiam la reprezentantoj senigis vualon, la monumento de granda natura ŝtono aperis.

Sur la monumento troviĝis vortoj "Pacon al 947 ĉevaloj senditaj al la fronto de ĉi tiu stacio" kun gravurita ĉevalo, kiu estis kuranta flirtigante la kolharojn.

La staciestro momente supren rigardis al hela ĉielo en aŭtuno. Sur la ĉielo blanka nuboj swebis penikante figuron de ĉevalo.

"Hakusan revenis kun plezuro al hejmloka ĉielo pro la hodiaŭa afero. Volu tie ludi kontente." Li murmuris al ĝi, dume rigardadis supren.

Fino.

★ 第3回HEL委員会報告 ★

RAPORTO PRI LA TRIA KOMITATA KUNSIDO DE HEL

日時：95年5月28日(日) 12:00~15:00 (合宿終了後)

場所：法然寺(岩見沢)

出席者：星田淳、阿部映子、馬場恵美子、渡辺晋道、(委員外：大鋸敏雄、横山裕之)

記録：渡辺晋道

議事内容：

1) ヘロルド編集：57号は、原稿締め切りを6月19日とし、6月末頃発送する予定。

2) 大会計画：*日程は9月30日、10月1日。*場所「北海道母子福祉センター」

*参加費：2500円、家族参加費 並 不在参加費：1000円、バンケード：4000円

*記念品：漢詩のエスペラント訳本を予定。*客員講師：エスペランティスト向けと、一般市民向けをテーマにして話してもらえる講師を依頼する。

*HEL大会への審議事項の提案は、8月末日までに受け付ける。

3) 講師育成準備会：講師認定制度の案を教育部が作成し、今年の大会に提出する。制度の検討と共に人材の育成も必要なので、96年新年講習会を「J E I 検定3級を目指したレベル」に位置付けて検討する。

★ 第4回HEL委員会報告 ★

RAPORTO PRI LA KVARA KOMITATA KUNSIDO DE HEL

日時：95年6月17日(土) 16:30~19:00

場所：市職員会館、教育文化会館(札幌)

出席者：星田淳、阿部映子、馬場恵美子、渡辺晋道、(委員外：大鋸敏雄)

記録：渡辺晋道

議事内容：

1) 大会計画：*「まなびピア(生涯学習フェスティバル)」に参加することによって、一般の人へ広告できる機会を得られるので、10月1日のみ参加することにした。

*道との交渉は、馬場が担当する。*大会の主なパートのうち、HEL総会、バンケードを9月30日に行い、市民向け展示会、ビデオ上映、通訳付き講演、市民向け講演、1日入門講習(2回)を10月1日に「まなびピア」の会場で行う。

2) 会計監査報告の報告：新年講習会、春合宿、図書販売の会計について、監査が行われその監査結果報告書が委員長から報告された。

★ 第5回HEL委員会のお知らせ ★

KUNYOKO POR LA KVINA KOMITATA KUNSIDO DE HEL

下記により、第5回委員会を行いますので、委員の皆様のご出席をお願いいたします。なお、委員以外の会員の皆様のご出席も歓迎いたします。

日時：95年9月27日(水) 18:00より

場所：札幌市京王プラザ樹林

議題：大会準備、その他

第59回北海道エスペラント大会 (第1報)

La 59-a KONGRESO de ESPERANTISTOJ en HOKKAIDO

今年の大会は3年ぶりに札幌。今年の大会は第7回全国生涯学習フェスティバル(まなびピア'95北海道)に一般市民向け公開番組として参加しますので興味のある方、御友人をぜひお誘い下さい。その為例年ですと2日目で行われていた連盟総会が1日目(9月30日)、記念行事が2日目(10月1日)となりますのでご注意ください。また図書販売も1日目のみとなります。パンケードはサッポロファクトリーで飲み放題となります。また2日目の展示に使う資料を集めていますので、これから世界大会(フィンランド)・青年大会(ロシア)・夏期講習(アメリカ)に参加される方はよろしくお願い致します。(国内の大会も大歓迎)

日時/場所/内容

9月30日(土曜日)

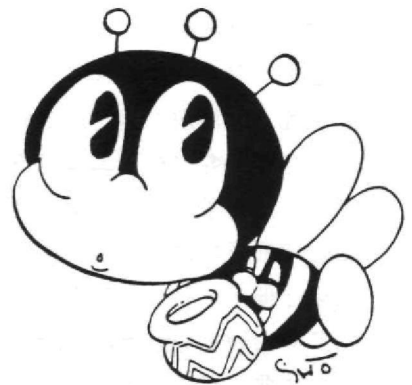
- *北海道母子福祉センター 2階大会議室(中央区北1条東8丁目 ☎(011)251-2016 *箱詰あり)
- 13:00 受付、展示物資料作成★協力参加者求む、図書販売(初日のみ)
- 15:00 北海道連盟総会(各報告、質疑、提案)、記念写真
- 18:30 パンケード*サッポロファクトリー・ピヤケラーサッポロ煉瓦館(飲み放題2時間予定)
ソフトドリンク有り(中央区北2条東4丁目 ☎(011)207-5959)

10月1日(日曜日) 市民向け公開番組

- *札幌市教育文化会館 3階特別会議室(中央区北1条西13丁目 ☎(011)271-5821)
- 9:00 展示物準備、★協力参加者求む
- 10:00 講演会 講師 S-r 佐藤勝一(宮古短大教授)
- 11:00 1日入門講座 12:00 昼食は各自で
- 13:00 講演会(日本語によるもの)
- 15:00 1日入門講座

- 会費 大会参加費¥2,500 家族参加費¥1,000
不在参加費¥1,000 パンケード¥4,000
(食事は含まれていません)
- 記念品 外国から直接輸入のエスペラント図書を予定
- 宿泊 早めに直接センターへ申込現地で支払
(1泊朝食付き¥3,800) *軽疎に大会と申し出る。
- 支払方法 郵便振替口座 02700-6-17075
「北海道エスペラント連盟」
参加者名、申込内容、住所、電話番号を明記
- 締切 8月31日 (大会提案共に)

- 質問・照会は 〒001 札幌市北区新琴似7条8丁目5番34号
第59回北海道エスペラント大会 馬場恵美子
☎(011)761-8060 21時以降



Cirkulero de A. HOS^IDA (950701)

*北海道大会のGastparolanto 決定!

S-ro 佐藤勝一(宮古短大教授)からJESの返事がありました。長年英語教育にかかわってこられた方です。演題は「外国語教育と国際語ーなぜ英語だけではいけないのか」としてビデオ映像も使って話します。

*S-ro坂下正幸、6月釧路から小樽土木現業所に転勤されました。近くなったのでSES, HELの行事にも顔を出してもらえればいいなと思います。# Jen la adreso. 006 手稲区稲穂1-7-263-77パシフィック星置ヒルズ103号 TEL(011-681-9545)

*Min vizitis du j^urnalistoj lastatempe. その結果、6月6日苫小牧民報の「さんぽ道」と6月30日北海道新聞苫小牧版に記事が出ました。道新の場合は世界的なコンピュータネットワークであるインターネットでエスペラントが使われている、ということに興味を持ったようです。

*そのインターネットのエスペラントニュースグループ soc.culture.esperantoではRO6月号に出た「エキーリーは誤りか」が国際的な議論になっています。投稿したのはS-ro ~~山~~山純一。月末までに20件ばかりの反応。しかし、始め泉さんが問題にした論点からずれたような議論もあります。

*PC-VAN加入のチャンス! 希望の方に割引特典付き小冊子を送ります。

6月30日朝 mia elektronika pos^tkesto に次の通信が入ってました。発信者 ESPEROは JEI, JPEAの理事でもある S-ro 石井義章。希望の方は私(星田)にお知らせください。

★#11449421 95/06/29 22:20:40

発信者: ESPERO エスペラントSIGOP 受信者: MCM63639 星田 淳

文書名: PC-VANウェルカムキット/SIGエス

皆さん、いかがお過ごしですか?

この度、SIG"エスペラント"ではPC-VANに新しく加入する人のために、小冊子「PC-VANウェルカムキット」を郵送することにしました。この小冊子には、初回利用料金2,000円分を割引する特典がついています。この小冊子「PC-VANウェルカムキット」をこれからPC-VANへ加入してみたいという方に郵送しますので、その方の住所をメールでお知らせ下さい。手渡し希望の場合には必要部数をご連絡ください。さっそく郵送します。

S-ro Rolf Ernst skribas elektronike
per INTERRETO (INTERNET)

スイスからのインターネット通信 (S-ro Rolf ERNST)

A. HOŠIDA (Tomakomai)

昨年札幌、ソウル (UK) で会った S-ro Rolf Ernstから時々 retpoŝto (パソコン通信の電子メール) が来るので一部紹介します。今年 Tampereに行く人は会えそうですね。
例によって彼は大文字を使いません。

★#10757740 95/05/20 20:48:41
saluton al tomakomai! kara sinjoro
hošida.

koran dankon pro via mesaĝo. kompreneble, mi bone rememoras vin. vi estas la kantema esperantisto de japanio...nuntempe mi multe skribemas por esperanto-gazetoj diversaj (ankau elektronikaj). esperanto restas mia granda hobia.

ek de oktobro 1994 mi laboras denove. mi estas dungita en reklama oficejo, kaj mi faras komputile kompostadon kaj bildprilaboradon/grafikon. estas interesa laboro.

ofte mi pensas pri japanio. restis multaj bonaj impresoj. mi konatiĝis kun tre multaj esperantistoj en japanio, kaj kelkfoje mi ricevas aŭ sendas leteron el/al via lando. kaj ofte mi manĝas (ĉi tie) per haŝioj!

malfeliĉe en eŭropo ne estas multaj novaĵoj pri japanio. nur se katastrofo okazas, en

televido raportigas(ekzemple kobe kaj tokio), terure, la amasmedioj nur raportas pri negativaj aferoj!

sinjoro hošida, kiam vi iros al tokio, bonvole salutu al la aliaj anoj de japana esperanto-instituto. ĝis baldau (retpoŝte), sincere salutas vin
rolfo el zuriko.

★#11309908 95/06/22 07:55:52
saluton, sinjoro hoshida.

okazis feliĉa konincido. nia laborejo fermos fine de julio, kaj tiam mi povos partopreni la universalan kongreson. bonŝance!

ĉisemajne mi havis eĉ tri gastojn el esperantujo ĉe mi. estis tre vigla etoso. malfeliĉe, la nova "pasporta servo" ankoraŭ ne aperis (jam duonan jaron da malfruo).

fartu bone, ĝis alia fojo. salutas amike vin
rolfo.

エスペラント語の輪を

国際語として百年ほど前に
発案されたエスペラント。星田
さんは「小さいころ天文マニア
で、星を見ながらギリシャ文字
やアラビア文字に興味をもって
おやじから話を聞いてるうちに、
世界の共通語があるんだよ
と、教えられた記憶がある。学
生時代、古本屋で本を手にし、
これだったのか」と学び始め



星田 淳さん

た。
四十年前に王子製紙の苫小牧
勤務となり、職場のサークル活
動のひとつとしてエスペラント
会を作り講師に。以来、エスペ

ラントの輪を広げるために活
動。今年も公民館で講習会が始
まった。「英語よりずっと簡単。

どの民族でも同レベル

母音が五つなので日本人は模範
的な発音ができるんです」
「直接、外国とつながりのあ
る手ごたえをつかみたいと思っ
た。民族語の場合は、それぞれ
生まれたときから使っているの
で、外国人がかなり話せても微
妙に分らない部分がある。エ

スペラントはこの民族でも同じ
レベルで話すことができるのが
魅力ですね」
エスペラントは特に文学、文
芸の分野でその力を発揮。世界
の代表的な作品はエスペラント
に訳され、また転訳されて広く
読まれている。中学生のころ読
んだ「トー・ハウ・ベトナムの
若い母」という本は、星田さ
んの翻訳だったことを思い出し
た。

苫小牧市糸井393。63歳。



<栗井 典子>

たうんがいと

たうんがいと

人工国際語 エスペラントで 世界へ交流の輪

苦小牧会の星田会長

六月三十日 北海道新聞苦小牧版

インターネットで世界のエスペランティストと交流し、苦小牧エスペラント会の星田淳会長（右）苦小牧市井川が、パソコン通信を使ったエスペラントによる国際交流を行っており「仲間が増える」と喜びながら活動の輪を広げている。

パソコン通信が威力

平等な言語に弾む話題

星田さんは一九四七年に人工国際語であるエスペラントに出合い、戦後休止状態にあった苦小牧エスペラント会を再結成した。現在は同会の会員九人とともに、毎週の学習会や、国際文通活動などを行っている。昨年からワープロを使ってパソコン通信を開始、大手商用ネットのPCIVANのエスペラントのSIG（趣味な特定分野に興

味を持つ人のグループ）に参加し、全国のエスペラント仲間との交流を深めている。今年一月からは、大手ネットPCIVAN経由で、世界各地のコンピュータネットワークが接続しているネットワークであるインターネットに参加、電子掲示板に参加者が次々に情報を書き込む「ニュースグループ」や電子メールで、世界のエ

スペランティストとエスペラントによる意見交換をしている。アメリカ、日本、ロシア、シンガポール、台湾など多くの国からの参加があり、話題は、民族と地域紛争などの世界情勢やヨーロッパの共通語やエスペラント自体の話題などさまざま。「最近はおウム真理教の話題も多い（星田さん）という。その内容は印刷して、学習

会の話題にしている。エスペラントを使えば、特定の国家や民族に有利不利にならない、平等な議論ができる。パソコン通信は国内の交流にも効果的。全国にエスペランティストは数千人いるといわれるが、地域が離れていても質問や指導ができる。星田さんは「パソコン通信を通して添削講座が普及します。初心者向け、



インターネットの書き込みを読む星田さん

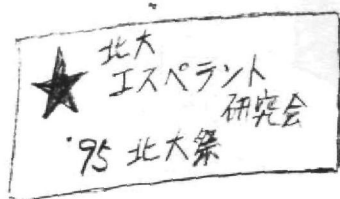
中級者向けなどありますよ」と参加を勧める。星田さんは「パソコン通信を通じて、若い方が国際語エスペラントに興味を示し、交流の輪が広がればいいですね」と新しいメディアに期待している。

Raporto pri Festivalo de Hokkajda Universitato 95

En la 3a kaj 4a de junio, dum la universitata festivalo, Esp-a ekspozicio okazis ĉe la Klark-memordomo. Ni, Esp-a Studgrupo en la Universitato realigis ĝin, kun kunlaboro de Sapporo-Esperanto-Scioto (SES) kaj s-ro Hoŝida de HEL. Ni disdonis faldfoliojn klarigi pri Esp, ekspoziciis librojn kaj gazetojn. Ankaŭ ni prezentis vidyendon pri la historio de Esp, montris fotojn de UK kaj leterojn el tutmondaj leteramikoj. Rapidkurson de Esp ankaŭ ni okazigis. Komence ni havis nur malmultajn vizitantojn tial, ke la ekspoziciejo estis malproksima de homsvarmejo. Sed f-ino Baba komencis disdoni la faldfoliojn al indiferentuloj kaj inviti ilin, kaj tio multigis vizitantojn. Ĉirkaŭ 80 homoj vizitis la ekspozicion dum 2 tagoj.

Ni kore dankas grandan kunlaboron al membroj de SES kaj s-ro Hoŝida.

OOGA Toŝio

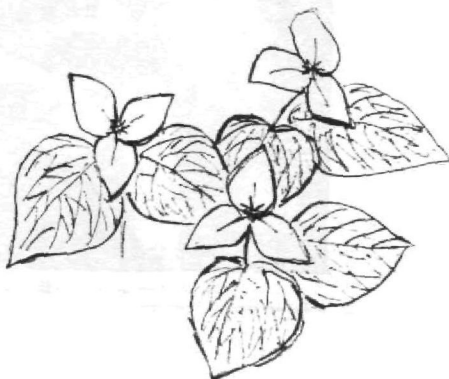


北大祭95報告

6月の3日と4日、北大祭にあわせて、北大クラーク会館でエスペラント展示会が行なわれた。北大エスペラント研究会(仮称)が、札幌エスペラント会と北海道エスペラント連盟の星田さんの協力を得て行なったもので、エスペラント紹介のパンフレット等の配付、雑誌・図書類の展示、エスペラントの歴史をまとめたビデオの上映などを行なった。また世界大会の写真や世界各地からの手紙を掲示し、速成講習会も実施した。会場が人通りの多い場所からは離れていたため、初めは見学者が少なかったが、馬場さんの機転によって会館の周りでパンフレットを配り、見に来るように誘うことで、見学者が増えた。2日間で約80人の見学者があった。

今回、多大なご協力をいただいた札幌エスペラント会の皆さんと星田さんに感謝いたします。

大鋸敏雄



EPIZODO INTER FAMAJ VERKISTOJ KAJ I. U.

ノーベル賞の大江健三郎、「死霊」の埴谷雄高とエスペラント詩人 I. U.

Acuŝi HOSIDA

日本が生んだエスペラント原作詩人として光っていた人、と云えばやはり思い出されるのは伊東三郎 (I. U.) だろう。Heroldo de HELのN-ro 29 (marto-aprilo 1989) では、ちょうど彼の没後20年に当たり横浜の阿部祈美さんの文を巻頭にのせたことがあった。その文の中に挟みこまれていた詩の一つ Profunde mi nun spiras が、昨年のノーベル賞作家大江健三郎の作品 (「同時代ゲーム」: 1979. 11. 25発行) に出ていることは当時のHeroldoの編集者(S-ro カハラ) から指摘されている。とかく「難解」と言われる大江作品はあまり広く (大衆的に) は読まれていなかったせいか、エスペランティストにもこの事はあまり知られていない。I. U. 夫人 (宮崎公子さん) にお聞きしても、その本は読んだことがないとのこと驚いたが、その作品に入るいきさつについて「埴谷さんが間に立ってなされたと聞きました。I. U. の没後10年のころでしたか」と語る。この間の事情について、阿部希美さんから文をいただいたので以下に紹介する。なお埴谷雄高は大作「死霊」で有名な作家だが、昭和初期の伊東三郎とは反体制地下活動の同志だった。

Laŭ via trafa "demando", mi povus iomete grunti rilate al nia kara POEMO de IU "Pruntita"...

Jes, pri tiu eble honorigita nia bela Poemo, tre saĝe ornamita sur la dika libro de nun mondfama s-ro Verkisto, — iam venis unu telefono al mi, de alte estimata literaturisto S-ro HANIJA, kiel bonkora anstataŭulo por la verkisto-posteulo, sed ne de la verkisto mem__

Nur aŭdinte la aferon, post la afero, mi

simple postaprobis eĉ volonte, tamen mi faris leteron kaj sendis, ĝentile de nia flanko, rekte al la s-ro famulo mem.

Kaj poste mi ricevis nenion de iu ajn anstataŭuloj, nek de la koncernato, neniam__

Jen, tiel la afero estas finite...

Nun mi rememoras pri mortinta k-do Imamura, ke li diris ofte ke la poemo unu, estas sama al longa verkajo mem; estas konsiderinda.

札幌 에스ペラント会近況

~NOVAĴO PRI SAPPORO ESPERANTO SOCIETO~

馬場 恵美子

★入門講習が6月10日(土)13:30より札幌市職員会館において開始した。講師は宮岸忠孝氏。使用テキストはLA TEKSTO UNUAで13回コース約3ヵ月を目標にしている。参加者より辞書(原価)テキスト・コピー代(¥500)、受講料¥3,000を徴収したが同氏より会館使用料として受講料分を会に入金していただく。(入門講習の部屋代は会で負担することになっている)今回講習の案内が新聞三誌に掲載された関係で受講者は8名。

(久しぶりに多い) 男性1名。女性7名。うち再講習2名。受講の動機は、定年後の趣味として、国際交流に興味があって、受験を控えた子息の影響で、世界大会(タンペレ)に参加する為、入門をいつも途中で止めてしまっているなど様々。昨年入門講習を募集したが途中で流会になっただけに最後までつづけて欲しいもの。

★5月に白内障の手術をされた木村喜任治氏は術後の経過も良好で翌月から早速例会に参加しエネルギーに活躍しています。

★さて間もなく世界大会の季節(7月)がやってきます。札幌から私の知るところでは7名参加の予定。皆さん!体力・気力を充実させてどうぞ食欲にエスペラントを楽しんでください

BONAN VOJAGON!

★余計な話ですが`R`を上手に発音するのに「アブラーアゲ」(油あげ)と何度も言うのが良と言うことですが... お家の中でお試しあれ。

El redakatejo 編集部から

5月末発行のはずが、北海道大会の案内も記事に入れようということで、1か月遅れの6月末発行となりました。

第59回北海道エスペラント大会は、記事にもあるように「第7回全国生涯学習フェスティバル(まなびピア'95 北海道)」に参加し、エスペラント普及も力を入れる予定です。13頁の第1報を読んで、ぜひ参加申込みをしてください。

講演会の講師(gastparolanto)は、宮古短大教授のS-ro佐藤勝一。久しぶり札幌市での開催です。9月30日午後が総会ですが、土曜日に用事があり参加できない方は、翌日の講演会及び展示会にだけでもお越しください。

9月30日と10月1日で会場が異なりますのでお間違えのないように。

(Ejko Abe 阿部映子)

Heroldo de HEL

第57号(1995.6.30)

北海道エスペラント連盟機関紙
編集部

〒001 札幌市北区北12西1パークMS602

阿部映子気付 電011-756-2291

郵便振替口座

02700-6-17075

北海道エスペラント連盟